



市民の意見を 森林管理に結び付ける



ver.20060614

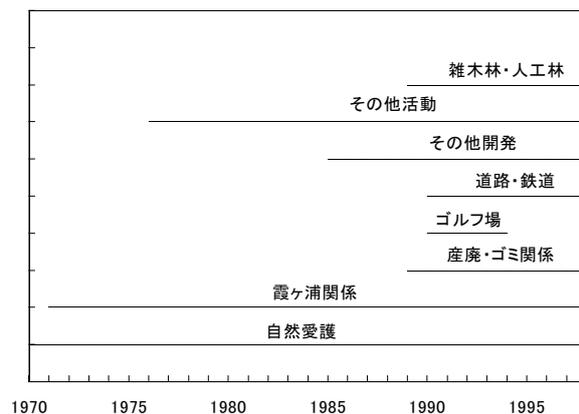
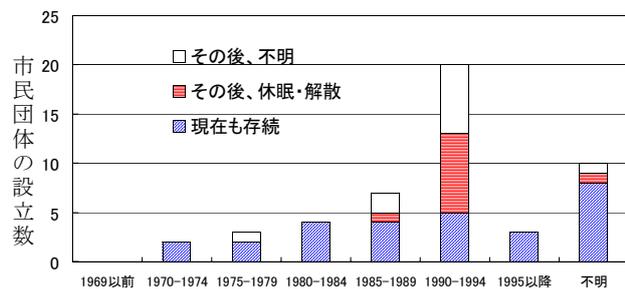
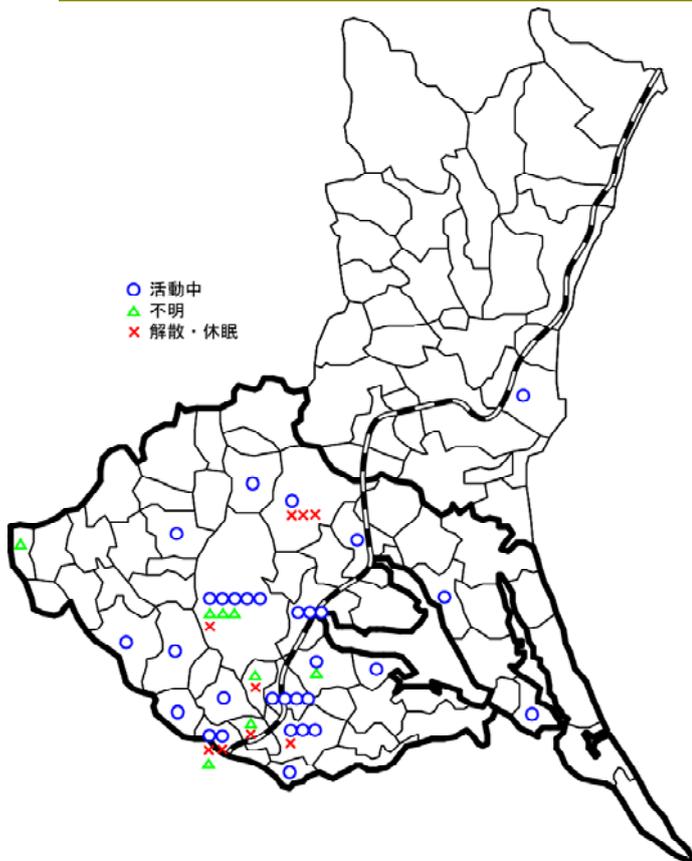
【はじめに】

地域ニーズに応える森林管理を行うために、森林計画の案の段階で市民の意見を受け付ける機会が、平成 10 年から設けられました。こうした市民参加の機会を活かすには、市民参加で得た地域の問題と森林との結びつきを探索したり、競合する要求を整理し、合意形成を支援する手法が必要になります。

以下では、霞ヶ浦流域をテストフィールドにして市民参加のシミュレーションを行い、問題の因果関係を系図に表す手法を用いた市民参加・合意形成支援手法の研究例をご紹介します。

1. まずは、地域の問題を見つけだす

霞ヶ浦流域には、どんな問題があるのでしょうか？市民参加のシミュレーションとして自然に関わる市民活動の活動テーマに注目し、当地の問題を探ってみました。



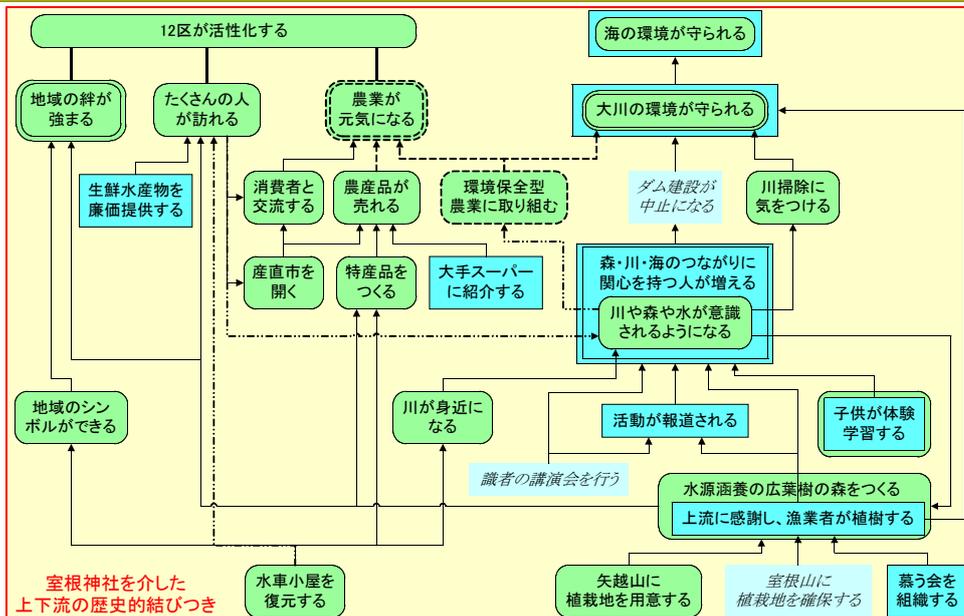
【解説】

霞ヶ浦流域では常磐線沿線を中心に市民活動の盛んな地域が分布しています。(左の地図) また、1990年代前半に多数の市民団体が設立されており(右上の図)、その頃の市民活動の盛り上がりが見て取れます。

活動テーマの推移(右下の図)を見ると、『自然愛護』と『霞ヶ浦の保全』が、当地で歴史のある問題であることがわかります。

5. 連携の仕組みを探る

問題認知の系図を合成することで連携の仕組みを探ることが出来ます。霞ヶ浦流域ではありませんが、三陸の「森は海の恋人」運動を事例に、上流の岩手県室根村 12 区自治会(緑色の要素。以下、12 区)と下流の宮城県唐桑町の牡蠣の森を慕う会(青色の要素。以下、慕う会)の問題認知を合成し、その連携の仕組みを探ってみましょう。



注) 青は慕う会、緑は 12 区。二重枠はそれぞれの中心目標。斜字は現在ない要素。点線は展開中の要素と関係。二点鎖線は予想しなかった効果。

【解説】 下から辿ると 12 区が用意した植栽地が慕う会の「海の環境が守られる」に貢献し、慕う会の植樹活動が「12 区が活性化する」の基底になっていることがわかります。このような『手持ちの物を出し合いながら単独では得られないものを獲得する』仕組みは組織間連携の基本になります。まだこの方法は既にある連携の仕組みを学ぶ方法に留まりますが、今後、組織間連携の可能性を探る方法として発展させたいと考えています。

6. 系図に描けないときはどうする？

問題意識がまだ感覚的で論理構造が不明瞭な場合は自由記述法を用いることで、イメージの構造が分析できます。ゼロ(農地)から森づくりを始めた霞ヶ浦市民協会の「どんぐりの里子作戦」参加者の意見を素材に、その将来像のキーワードを探りました。

<p>(どんぐり山への提案例:自由記述文)</p> <p>…そして、木々が大きくなったら枝払いをした枝で木工細工をしてみたい。…</p> <p>↓</p> <p>(JUMAN,KNPIによる構文解析例)</p> <p># S-ID:14 KNPI:2006/01/04</p> <p>木々が大きくなったら枝払いをした枝で木工細工をしてみたい。</p> <p>EOS</p> <p>※ JUMAN,KNPIは、東京大学 黒橋研究室が公開しているソフトウェアです。</p>	<p>(出現頻度分析)</p> <p>(施業関連の語)</p> <ul style="list-style-type: none"> 25 植える 17 下草刈り 8 枝打ち 5 伐採 4 間伐 2 仕立てる ... <p>(生き物関連の語)</p> <ul style="list-style-type: none"> 8 昆虫 5 カブトムシ 3 生き物 3 小鳥 1 動物 1 クワガタ 	<p>(実、山菜関連の語)</p> <ul style="list-style-type: none"> 5 サルナシ 4 アケビ 4 ヤマイモ 4 タラノメ 4 シイタケ 3 ギンナン 3 グミ 3 キイチゴ 3 ワラビ 3 ゼンマイ 3 フキ 3 マタタビ 3 タケノコ 3 ウド ... 	<p>(係り受け分析)</p> <p>(“楽”をキーワードにした係り受け分析)</p> <p>サルナシは楽しい つけるので楽しい 煮炊きして楽しめるようにしたいです 燃やして楽しめるようにしたいです 植えて楽しむ 収穫を楽しむ 虫取りなど楽しみもまた 黄葉を楽しむ 副産物を楽しみながら どんぐり山で楽しむ 皆さんで楽しみながら 皆さんで楽しみながら 皆さんで楽しむ 人が楽しむ ...</p>
--	---	---	---

【解説】 この例では食べる楽しみや生き物と触れあうことに関心が高い結果となりました。自由記述法は通常のアンケート調査が苦手な予期しない回答が得やすい一方、分析に手間がかかりました。現在は出現頻度や係り受け分析はフリーソフトで手間が軽減できます。

今後、幅広い地域ニーズに応える森林管理を進めるために、問題が論理的に捉えられている場合は系図、感覚的な場合は自由記述法を活用することが有効と考えます。

お問い合わせ：森林総合研究所 企画調整部 研究情報科 広報係
電話：0298-73-3211(内線227)、e-mail:kouho@ffpri.affrc.go.jp